

授業科目	小児看護学概論	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②古田 晃子 ③児童福祉司 ④梶浦 由美	単位数	1	時期	1 年次 9 月～12 月	D P	1 2
			時間数	30					
目的と目標	小児看護の対象である子どもと家族の特徴ならびに子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の役割を学ぶ。 1 子どもの成長・発達の過程が理解できる。 2 子どもの日常生活と援助が理解できる。 3 子どもを取り巻く現代の家族や社会の状況が理解できる。 4 子どもの権利について理解できる。 5 子どもの健康な生活の保持・増進のための看護の役割を考えることができる。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	小児看護の特徴と意義	(1) 小児看護の対象 (2) 小児看護・医療の変遷と課題				講義	専任教員 ()		
2	子どもと家族を取り巻く社会 (11 時間)	(1) 子どもと家族の諸統計 (1 時間)							
3		(2) 子どもをめぐる法律と政策 ①児童福祉法 ②母子保健法 ③小児慢性特発的疾患医療費助成制度							
4		(3) 乳幼児期の保健 (4) 予防接種							
5		(5) 小児看護における倫理 ①子どもの権利 ②医療現場でおこりやすい問題点と看護				講義	外部講師 (古田 晃子)		
6		(6) 子どもへの虐待 ①虐待の特徴と現状 ②虐待のリスク要因と発生予防 ③虐待の早期発見 ④多機関・多職種の連携・協働				講義	外部講師 (児童福祉司)		
7									
8	子どもの成長・発達	(1) 成長・発達とは (2) 成長・発達の一般的原則 (3) 形態的特徴 ①身長 ②体重 ③頭蓋 ④頭囲と胸囲 ⑤身体バランス ⑥生歯 ⑦骨の発育				講義	専任教員 ()		
9		(4) 身体機能の特徴 ①呼吸機能 ②循環機能 ③体温調節機能 ④消化機能 ⑤腎機能と水分代謝 ⑥免疫機能 ⑦神経系 ⑧感覚機能 ⑨運動機能 (5) 知的機能 ①記憶・思考の能力 ②言語・コミュニケーション能力 (6) 情緒・社会性 ①人間関係 ②情緒の分化				GW			

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
10 11 12 13	子どもの日常生活と 養育	(7) 子どもの成長・発達の評価 ①成長・発達に影響する因子 ②成長の評価 ③発達の評価 (1) 子どもの栄養 ①授乳と離乳 ②食生活と食育 (2) 基本的生活習慣の獲得 ①新生児期・乳児期の日常生活の援助 ②幼児期の基本的生活習慣の自立と援助 (3) 子どもの遊び ①子どもの遊びの意義 ②遊びの支援 (4) 事故防止と安全教育 (5) 学童期・思春期・青年期の生活の特徴と 心理・社会に関する問題 (6) 学童期・思春期の生活と保健 (7) 学校保健（スクールカウンセリング）	講義 GW	専任教員 ()
14			講義	外部講師 (梶浦 由美)
15	子どもの健康な生活の 保持・増進のための看 護の役割	(1) 子どもの健康な生活の保持・増進のための 看護の役割について	講義 GW	専任教員 ()
	試験（1 時間）			
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点 合計 100 点 ＊再試験の場合、筆記試験 80 点およびレポート 20 点 合計 100 点分で評価する。			
教科書 参考文献	系看小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること			
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③児童福祉司として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④養護教諭として教育機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	治療を受ける子どもと家族の看護	担当教員	専任教員☆ 外部講師☆ ②村上 博昭 ③岩田 祐輔 ④松波 邦洋	単位数	1	時期	1 年次 12 月～ 3 月	DP	1 3
			時間数	30					
目的と目標	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ。 1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護が理解できる。 2 子どもの発達段階に応じた、苦痛の緩和、成長発達を促す援助を考えることができる。 3 子どもに特有な疾患について理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2 3 4	病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護	(1) 病気に対する子どもの反応 ①病気にに対する子どもの理解 ②病気・治療に伴うストレス ③ストレスに対する反応・対処 ④痛みを伴う子どもの看護 (2) 子どもの健康障害に対する家族の反応 ①健康障害の受け止め ②子どもの病気が家族に及ぼす影響 (3) 病気に対する子どもの理解と説明 ①プレパレーション (4) 入院中の子どもと家族への看護 ①成長・発達に及ぼす影響 ②子どもの反応とストレス対処行動 (5) 外来における子どもと家族への看護 ①外来における緊急度の把握・トリアージ ②外来における感染防止対策 ③外来受診する子どもと家族の看護			講義	専任教員 ()			
5 6 7 8 9	検査や処置を受ける子どもと家族への看護 (9 時間)	(1) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 ①活動制限の目的と影響 ②子どもの発達段階に応じた援助 (2) 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ①バイタルサインの測定 ②身体測定 ③採尿			講義 演習	専任教員 ()			
10 11 12 13 14 15	子どもに特有な疾患の理解	(1) 染色体異常 (2) 代謝性疾患 (糖尿病、新生児マススクリーニングを含む) (3) 消化器疾患 (肥厚性幽門狭窄症、鎖肛、腸重積) (4) 血液・造血器疾患 (紫斑病、白血病) (5) 腎・泌尿器疾患 (ネフローゼ症候群、尿道下裂) (6) 循環器疾患 ①先天性心疾患 (心室・心房中隔欠損症、ファロー四徴症、動脈管開存症) ②後天性心疾患 (川崎病) (7) 免疫・アレルギー性疾患 (アナフィラキシーショック、気管支喘息) (8) 感染症 (ウイルス感染症、髄膜炎)			講義	外部講師 (村上 博昭) (岩田 祐輔) (松波 邦洋)			

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
	試験（1 時間）	(9) 呼吸器疾患 (10) 脳神経疾患 (急性脳症、てんかん、脳性麻痺、二分脊椎) (11) 感覚器系の疾患（扁桃炎、中耳炎、斜視）		
評価方法	筆記試験 100 点（1～9 回：40 点、10～15 回：60 点／各講師 20 点）			
教科書 参考文献	系看小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系看小児看護学 2 小児臨床看護各論（医学書院） 根拠と事故防止からみた小児看護技術（医学書院）			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること			
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②③④医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	健康レベルに応じた子どもと家族の看護	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ② 桑田 弘美 ③ 市川 百香里	単位数	1	時期	2 年次 4 月～7 月	D P	1 3 4
				時間数	30				
目的と目標	子どもの健康レベルや症状に応じた看護を学ぶ。 1 子どもに対する症状の緩和、健康の保持増進、成長・発達を促す援助が理解できる。 2 健康障害をもつ子どもの状態を把握する為の観察について理解できる。 3 健康障害をもつ子どもと家族の看護を考えることができる。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1 2	急性期にある子どもと家族への看護	(1) 急性期の特徴 (2) 主な症状のアセスメントと看護 ①発熱 ②脱水 ③下痢・嘔吐 ④呼吸困難 ⑤けいれん				講義 GW	専任教員 ()		
3 4 5	慢性期にある子どもと家族への看護 (5 時間)	(1) 慢性期の特徴 (2) 長期入院が子ども・家族に与える影響 (3) 発達に応じたセルフケア能力の獲得・自立支援				講義 GW			
6 7	周手術期の子どもと家族への看護 救急処置が必要な子どもと家族への看護	(1) 子どもの手術の特徴 (2) 子どもと家族の術前準備 (3) 手術後の身体状態のアセスメントと援助 (1) 子どもの救急におけるトリアージと対応 ①意識レベル ②一次救命処置 ③心肺蘇生法 (2) 誤飲物質と処置 (3) 熱傷の特徴・重症度および処置 (4) 溺水と処置 (5) 生命が危険な状況にある子どもと家族への援助				講義	外部講師 (桑田 弘美)		
8	終末期にある子どもと家族への看護	(1) 子どもの生命・死の捉え方 (2) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア (3) 子どもの死を看取る家族への看護				講義	専任教員 ()		
9 10	障害のある子どもと家族への看護	(1) 心身障害の定義と種類 (2) 障害のある子どもと家族のニーズと支援 ①重症心身障がい児 ②発達障がい児 (3) 地域で生活する医療的ケア児・重症心身障がい児の実際				講義	外部講師 (市川百香里)		
11 12 13	健康障害をもつ子どもと家族への看護	(1) 対象の理解 ①発達段階 ②疾患理解				演習 GW	専任教員 ()		

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
14 15	試験（1 時間）	(2) 安全管理 ①環境の把握 ②発達段階 (3) 観察の視点と方法 (4) 子どもの状態に応じた援助の工夫 (5) 家族への関わり方の工夫	演習 GW 臨床判断	専任教員 ()
評価方法		筆記試験 100 点		
教科書 参考文献		系看小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系看小児看護学 2 小児臨床看護各論（医学書院） 根拠と事故防止からみた小児看護技術（医学書院）		
事前準備や 受講要件等		教科書を読んで講義に臨むこと 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること		
☆担当教員 の実務経験		①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。		